



悪魔との契約

俺は悪魔と契約をした。

願い事1つ叶えるのと引き換えに俺が死んだ後の魂をよこせっと悪魔は言う。

俺は頭を働かせ「永遠の命が欲しい」と願った。

死ぬことが無いなら魂は取られないからだ。

だが思っていた永遠と違っていた。

俺は今日も**23614**回目の今日を繰り返す

吸血鬼

村には吸血鬼がいた。

吸血鬼は有名だった。

村人全員が吸血鬼予防に十字架を持っているぐらいにだ。

その為、なかなか人の血が吸えない。

なら、私を知らない時代に行けばいいと考え、吸血鬼はタイムマシンを作り上げた。

血を求め、タイムマシンに乗り込む。

着いた所はロボットしかいない未来都市だった。

会話

「あの地球が欲しい」

「ああ、確かに良い所ですよ」

「だが、地球人が邪魔だな」

「それなら大丈夫ですよ」

「ん、なぜだ？」

「アイツら、お互いに殺し合ってますから、近々絶滅しますでしょう」

ある惑星での会話。

こっちにおいでよ

「こっちにおいでよ」

去年亡くなった妻が囁く。

技術の進歩により、霊界との通信が可能になった現代。

妻が言うには、天国はさぞ素晴らしいらしい。

わかったよ、と僕は言い葉を飲んだ。

自殺者は年々増加していった。

「いやあ、おかげさまで人口が減ったよ」

「いえいえ、僕たちものびのびと研究ができます」

未来人

自らを未来人と名乗る奴らが突然街に現れた。

未来人たちは強盗、強姦、殺人などすき勝手に暴れ始める。

俺はたまたま「過去を変える事したら駄目なんじゃないのか！」って未来人に叫んだ。

未来人は「そうだ」と言い、「しかしこの街は明日、核で滅んでしまうから何しようが変わりはないのだよ」